**夏の外務省**

奥日光の標高が高く、冷涼な気候のため、中禅寺湖は19世紀後半から夏の暑い日を過ごす場所として人気があった。特に19世紀後半から20世紀初頭にかけては、在日外国人、特に外交関係者に人気があった。外国の大使館の多くは湖畔に別荘を構えており、暑さをしのぐために中禅寺湖に出かける外交官の数は非常に多く、「夏には外務省は日光に移る」という言葉が生まれたほどである。

しかし、日本にいる外国人は特別な許可がなければ自由に国内を移動することができず、1858年の修好通商条約などで結ばれた条約港に関連した一定の区域に限定されていた。1875年からは、日本政府にこれらの区域外への渡航許可を申請することができるようになった。1899年には治外法権が廃止され、外国人は自由に旅行することができるようになった。

右上の文書は外務大臣光睦宗(1844-1897)宛の渡航許可申請書である。左側はアメリカ人のための制限区域外旅行許可書である。F. J. エルディッジ宛の手紙だ。

これらの文書の下の右の写真は男体山ヨットクラブが毎週開催している中禅寺湖でのヨットレースを撮影したもので、左の写真は男体山ヨットクラブが毎週開催している中禅寺湖でのヨットレースを撮影したものです。左の写真は、大尻地区の湖畔の別荘。

**イタリア大使館別荘**

パネル左上の写真は、チェコ生まれのアメリカ人建築家アントニン・レイモンド（1888-1976）が1928年に建てたイタリア大使館別荘。外装・内装ともに杉材が使用されており、周囲の環境に溶け込む構造が特徴である。1997年に栃木県に寄贈されるまでイタリア大使館が使用していた。現在は「イタリア大使館別荘記念公園」として一般公開されている。

写真の下は、中禅寺湖の南東岸にある別荘の位置を示す地図。右側には、赤で描かれたスケッチがあり、建築物の細部がよくわかるようになっている。左下は１階と２階の間取り図。